「二次方程式の利用」色々な問題の解き方 「図形・動点・容積など」

「二次方程式の利用」とは、つまり色々な数学の問題を、二次方程式で表すことで、効率 的に解こうということ。「二次方程式」を問題を解くために「利用」するんだね。

ただ、その利用の方法が、問題のパターンごとに変わってくるので、それぞれのパターン ごとに、どうやって二次方程式を使ったら良いのかを解説していくよ。

SHOW -

二次方程式の利用「整数の問題」

「ある整数」について、その整数がどんな数かヒントが書いてあって、そのヒントをもと に二次方程式に当てはめて、その整数がいくつかを考えるタイプの問題だよ。

それでは早速やってみよう。

問題

差が3の大小2つの整数があります。それぞれの整数を2乗した和が65になりました。 2つの整数を求めなさい。

この問題の「ある整数」を求めるためのヒントは、 「差が3」 ということと、

「それぞれの整数を2乗した和が65になる」 ということだね。イメージはこんな感じになるよ。

差が3 $\cap \land$

 $O^{2} + \Delta^{2} = 65$



ただ、Oと△では2次方程式の計算が面倒になるので、文字を使って考えよう。

2つの整数のうち、小さい方を「x」とすると、差が3だから大きい方は「x+3」と表せるよね。

差が3 $x \quad x+3$

 $x^{2} + (x+3)^{2} = 65$ W John Contraction

それぞれの整数を2乗した和が65になるから

 $x^{2}+(x+3)^{2}=65$

という二次方程式をたてることができるよ。

二次方程式をたてることができたら、あとはそれを実際に解いて、xを求めればいいんだ。 そうすれば、「ある整数」が求まるよね。

x²+(x+3)²=65 ←(x+3)²を展開しよう x²+x²+6x+9=65 2x²+6x+9-65=0 2x²+6x-56=0 ←両辺を「2」で割ろう x²+3x-28=0 ←左辺を因数分解しよう (x+7)(x-4)=0 x=-7,4

「x」は「-7」または「4」ということがわかったね。 「x」って、2つの整数のうち「小さい方」だったよね。

大きい方は「x+3」と表せるから、 x=-7のとき、大きい方は-7+3=-4 x=4のとき、大きい方は4+3=7 になるよ。





だから、差が3で、それぞれの整数の2乗の和が65に2つの整数は -7と-4 または 4と7 になるよ。

もうしパターンやってみよう。

問題	
連続する3つの整数をそれぞれ2乗した和が14 整数を求めなさい。	9になった。3つの整数のうち真ん中の
この問題のイメージはこんな感じになるよ。	AD THE CONTRACTOR

連続する整数 $\circ \land \diamond$

 $0^{2} + \Delta^{2} + 2^{2} = 149$

ただ、Oと△と◇では2次方程式の計算が面倒になるので、文字を使って考えよう。

3つの連続する整数のうち、真ん中の整数を「x」とすると、

連続する整数

 $x - 1 \ x \ x + 1$

 $(x-1)^2 + x^2 + (x+1)^2 = 149$

それぞれの整数を2乗した和が149なるから

 $(x-1)^{2}+x^{2}+(x+1)^{2}=149$

という二次方程式をたてることができるよ。



 $(x-1)^{2}+x^{2}+(x+1)^{2}=149 \leftarrow 左辺を展開しよう$ $x^{2}-2x+1+x^{2}+x^{2}+2x+1=149 \leftarrow 左辺を整理しよう$ $3x^{2}+2=149$ $3x^{2}+2-149=0$ $3x^{2}-147=0 \leftarrow 両辺を「3」で割ろう$ $x^{2}-49=0$ $x^{2}=49$ $x=\pm7$

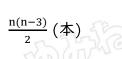
「x」は整数だから、x=-7もx=7もこの問題の答えに適しているね。 x=-7のとき、3つの整数は-8,-7,-6 x=7のとき、3つの整数は6,7,8 になるよ。

二次方程式の利用「公式を使う問題」

このパターンの問題では、ある数学の公式が提示されるので、その公式を使って、問題で指示され たことについて解けばいいだけだよ。

問題

n角形の対角線の本数は次のような式で表せます。



対角線の本数が152本になる多角形は何角形か。

n角形の対角線の本数は $\frac{n(n-3)}{2}$ (本)と表せて、これが152本になるときだから、次のような方程式 がたてられるよ。 $\frac{n(n-3)}{2}$ =152 方程式を満たすnを求めたらOKってことだね。 $\frac{n(n-3)}{2}$ =152 $\frac{n(n-3)}{2}$ ×2=152×2 ←分母の「2」を消すために両辺に「2」をかけるよ n(n-3)=304 ←展開をしよう n²-3n=304



n²-3n-304=0 ←因数分解をしよう (n+16)(n-19)=0 n=-16,19

「n」ってn角形のnだったよね。

19角形はあっても-16角形なんて存在しないから、この問題ではn=-16は適していないよ。 だから、対角線が304本になるのは19角形とわかるね。

この問題のパターンのように、答えが「負の数ではありえない」など、2次方程式を解いて求めた答 えがすべて適しているとは限らないときがあるんだ

求めた答えが、その問題の答えとして適しているかどうか?を毎回考える必要があるので注意しよう。

二次方程式の利用「速さ・割合の問題」

速さの問題

問題

ボールを秒速20mの速さで真上に投げるとき、 投げてからx秒後のボールの高さは(20x-5x²)mと表すことができる。 (1)ボールの高さがはじめて5mになるのは何秒後か。 (2)ボールが落ちてくるのは何秒後か。

(|)

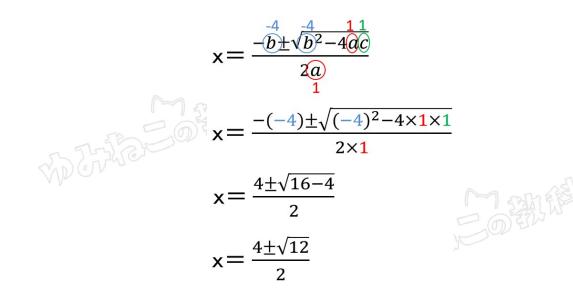
ボールの高さがはじめて5mになる時間を求めよう。

ボールの高さは(20x-5x²)mと表せて、これが5mになるときだから次のような2次方程式になるよ。

20x-5x²=5 ←右辺の5を移項しよう -5x²+20x-5=0 ←両辺を5で割ろう -x²+4x-1=0 ←両辺に(-1)をかけて、「x²」の前の符号を「+」に x²-4x+1=0 左辺は因数分解できないから解の公式を使って解を求めよう。



ax²+bx+c=0とx²-4x+1=0を比べると a=1、b=-4、c=1とわかるね。 解の公式を使おう。

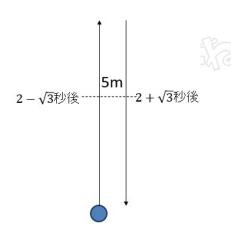


√12ってa√bの形にしたら2√3になって、約分もできるから

$$x = \frac{4 \pm 2\sqrt{3}}{2}$$
$$x = 2 \pm \sqrt{3}$$

ボールが5mの高さになるのは、2-√3秒後と2+√3秒後と求まるよ。 なぜ2回あるかっていうと

ボールが上がっていくときと落ちていくときで2回5mになるタイミングがあるよね。





今回の問題では、はじめて5mになるのは何秒後かを求めるのだから、

答えは2- $\sqrt{3}$ 秒後だよ。

(2)

ボールが落ちてくるってことは、高さがOmになるってことだよね。

ボールの高さは(20x-5x²)mと表せて、これが0になるときだから次のような2次方程式になるよ。

 $20x-5x^2=0$ -5x²+20x=0 ←両辺を(-5)で割ろう x²-4x=0 ← 共通因数 「x」 で く く ろ う x(x-4)=0

x=0,4

高さがOmになるのは、O秒後と4秒後だとわかるね。ただ、O秒後っていうのは投げる時だから、答 えは4秒後ってことだね。

気を付けること $x^{2}-4x=0$ を見て「x」で割ったりしないようにしよう。文字がOになる可能性もあるからね。 方程式を解くときは、Oで割ってはいけないという決まりがあったよね。

割合の問題

問題

原価500円の商品にx割の利益を見込んで定価をつけた。ただ、売れなかったためx割引きで 売ったので、最終的な金額は480円で販売した。

xの値を求めよ。

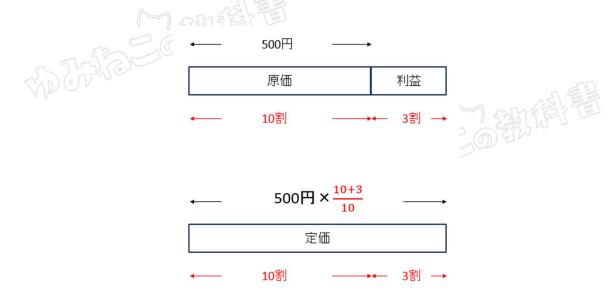


割合ってただでさえイメージがしにくいのに、文字も出てくるから難しく感じると思うよ。

だからまずは数字で考えよう。

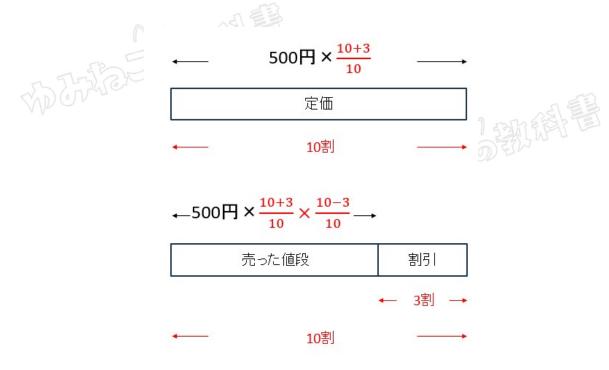
x=3としてみよう。

①原価500円の商品に3割の利益を見込んで定価をつけた。



定価は500×¹⁰⁺³円と求まるよ。

②3割引きで売った





定価500× $\frac{10+3}{10}$ 円の商品を3割引きで売ったから、 売った値段は500× $\frac{10+3}{10}$ × $\frac{10-3}{10}$ 円と求められるよ。

次に実際にxを使って考えていこう。「3」で計算していたところを「x」に変えればOK。

①原価500円の商品にx割の利益を見込んで定価をつけた。

定価は500×^{10+×}円と求まるよ。

②x割引きで売った 売った値段は500× $\frac{10+x}{10}$ × $\frac{10-x}{10}$ 円と求められるよ。

③最終的に売った値段は480円になることから方程式をたてる

 $500 \times \frac{10+x}{10} \times \frac{10-x}{10} = 480$

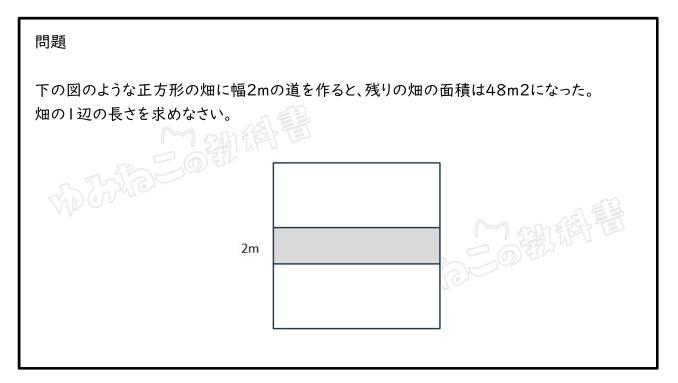
④方程式を解いて、xの値を求める

```
500 \times \frac{10+x}{10} \times \frac{10-x}{10} = 480
5×(10+x)(10-x)=480 ←両辺を「5」で割ろう
5で割ると左辺が5÷5=1になって式が簡単になるよ。
5 \times (10 + x)(10 - x) \div 5 = 480 \div 5
(10+x)(10-x)=96 ←左辺を展開しよう
100-x<sup>2</sup>=96 ←式を整理しよう。
100 - x^2 - 96 = 0
4 - x^2 = 0
x^{2}=4
x=\pm 2
```

こっていうことは「-2割」になるね。
 「-2割」という表し方は正しくないから、答えは2割だよ。

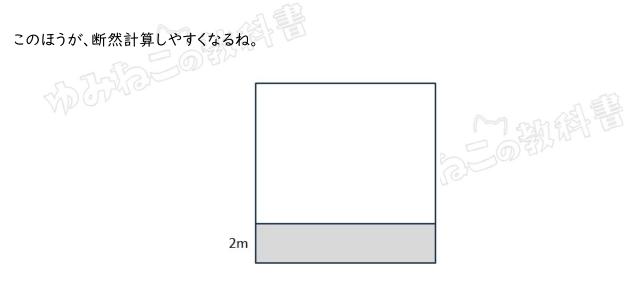


二次方程式の利用「図形の問題」



このような問題を解くコツは、図形を解きやすいように形を変えたりできないか考えること。

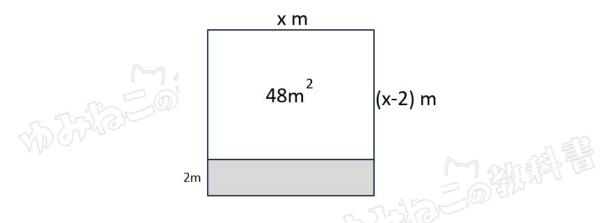
たとえばこの問題の場合、真ん中にある「幅2mの道」を下に移動しても、求めるべき「残った畑の 面積」は変わらないよね。





正方形の1辺の長さをxmとすると、残った畑の縦と横の長さは次のようになるよ。

横の長さはxm、縦の長さはxmから道幅2mを引いた長さだから(x-2)m。



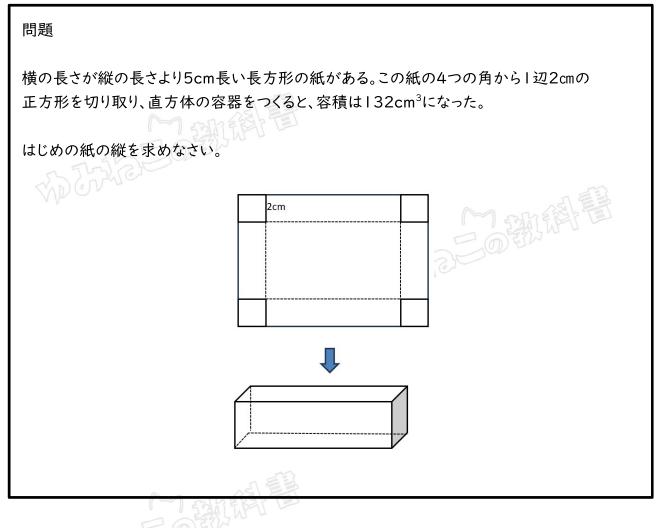
残った畑の面積は縦×横で求めることができて、これが48m²になるから

(x-2)×x=48
という方程式がたてられるね。
(x-2)×x=48 ←展開しよう
x²-2x=48
x²-2x-48=0 ←因数分解しよう
(x-8)(x+6)=0
x=8,-6

xは正方形の1辺の長さなので、「-(マイナス)」はありえないよね。だから答えは8mになるよ。



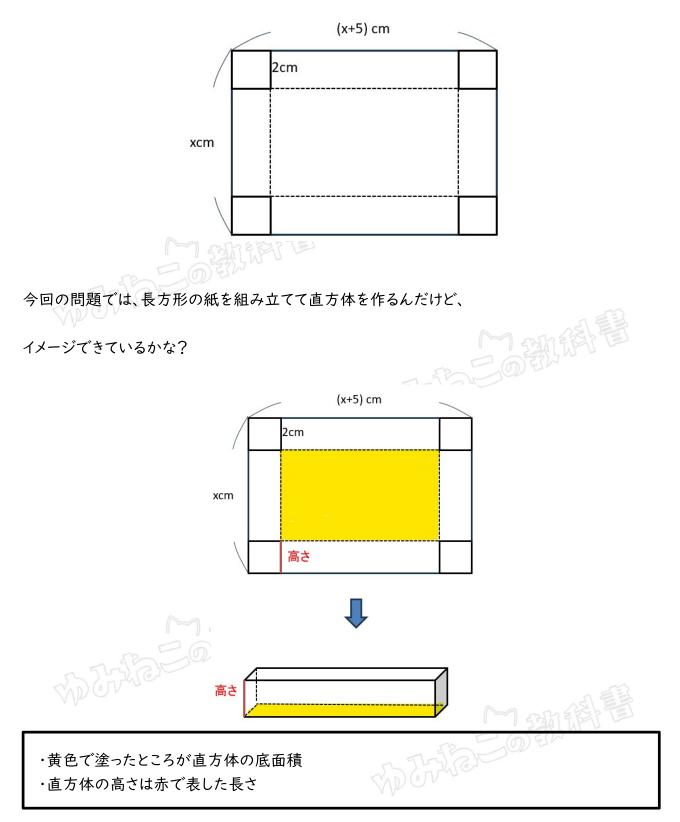
二次方程式の利用「容積の問題」



まず、求めたい長方形の紙の縦の長さをxcmとしよう。

W Internations and the second 横の長さは縦よりも5cm長いから、(x+5)cmと表せるよね。





黄色で塗った底面の縦と横の長さを求めてみよう。

縦の長さは

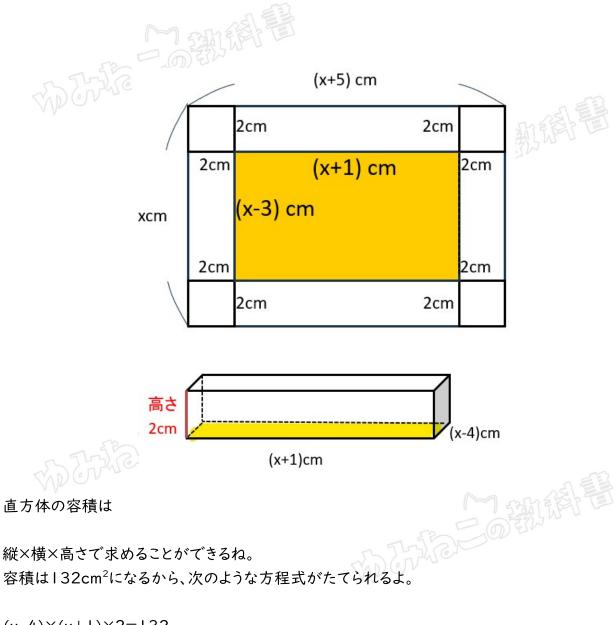
xcmから四隅の2cmを2つ分引いて

x - 2 - 2 = (x - 4)cm



横の長さは

(x+5)cmから四隅の2cmを2つ分引いて (x+5)-2-2=(x+1)cm



(x-4)×(x+1)×2=132 (x-4)(x+1)×2÷2=132÷2 ←両辺を「2」で割ろう (x-4)(x+1)=66 ←左辺を展開しよう x²-3x-4=66 x²-3x-4-66=0

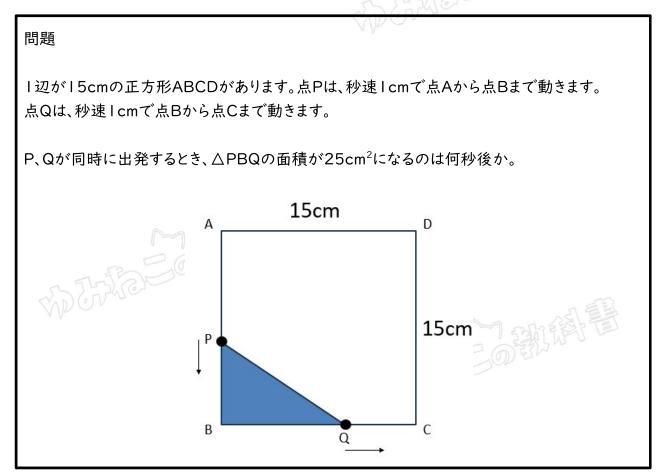


x²-3x-70=0 ←因数分解しよう (x-10)(x+7)=0 x=10,-7

「x」は長方形の縦の長さだったから「-(マイナス)」はありえないよ。だから答えは10cmと求まるね。

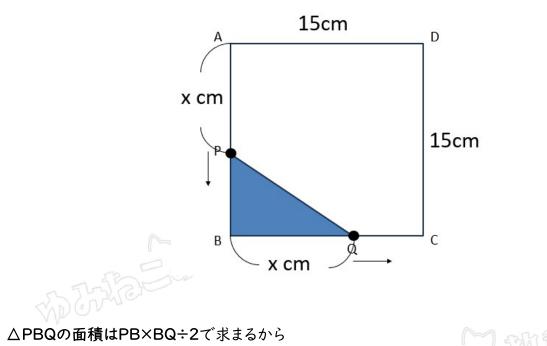


動点の問題とは、図形上にある「点P」などが、図形の辺などの上を移動するパターンの問題だよ。



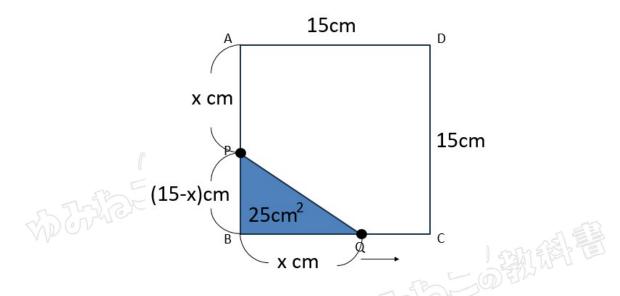
x秒後に△PBQの面積が25cm²になったとしよう。 点Pも点Qも1秒で1cm動くから、x秒だとxcm動くよね。 x秒後の△PBQは下の図のようになっているよ。





PBの長さを求めよう。

PBの長さは正方形の1辺の長さ15cmからAPの長さxcmを引けばいいから PB=(15-x)cm



x秒後に△PBQの面積が25cm²だとすると、次の方程式がたてられるよ。

△PBQの面積=PB×BQ÷2=25

x×(15-x)÷2=25 x(15-x)÷2×2=25×2 ←両辺に「2」をかけよう x(15-x)=50 ←展開しよう 15x-x²=50



ゆみねこの教科書

```
|5x-x<sup>2</sup>-50=0
-x<sup>2</sup>+|5x-50=0 ←両辺に「-|」をかけよう
x<sup>2</sup>-|5x+50=0 ←因数分解しよう
(x-5)(x-10)=0
x=5,10
```

解は2つあるけど、どちらとも答えにしてもいいのかを考えよう。 正方形の1辺の長さは15cmで、点P、点Qは15秒でゴールするよね。 ということは、5秒後、10秒後は条件を満たしているから、両方とも答えにしていいってことになる ね。





